



# 東京建築カレッジ 第23回公開講座 「森林の恵みを暮らしの中へ」

# カレッジ通信

編集・発行  
東京建築カレッジ

授業見学  
大歓迎！  
TEL 03  
(5950)  
1771



東京建築カレッジは生活者、お施主様に木の特徴と魅力を語れる人を育てるため、2年次に「林業研修」を行っています。

## 10月30日(日)13:00-16:30 YouTube LIVEを視聴しましょう

### 木を育て使う循環

「林野庁「木づかい運動でウッド・チェンジ！」から」木は二酸化炭素を吸収し酸素を放出して、炭素を体内に蓄え、成長

します。その木を木製品や住宅として利用すると、その間は、二酸化炭素を放出することなく蓄え続けます。そして、伐採した跡地にまた、適切に木を植えることで、その木

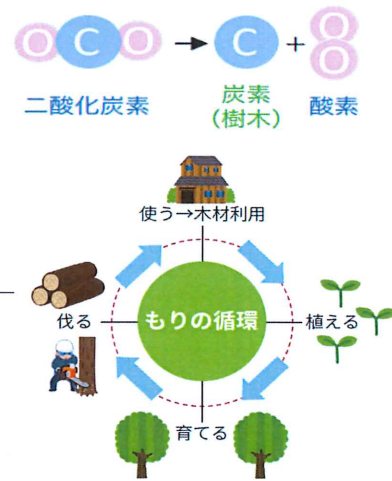
今年の公開講座は「木を使う暮らしを広げることで持続可能な地球環境、社会をめざそう」がテーマです。地球温暖化防止のため国内の豊富な森林資源の活用が急務の今、建築がどのように貢献したらよいか、考えます。毎年「林業研修」でお世話になっている埼玉県飯能市の林業家、井上淳治さんの基調講演を受けて、設計、大工、不動産の第一線で活躍中の卒業生が、日本の森林資源が生かせる建築の仕事の創造について語り合います。

感染予防のため会場参加は在校生と教員、関係者のみとさせていただきます。一般の方はYouTubeライブ視聴でご参加ください。参加無料。

### 木材利用促進法

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」は、法改正され、法律の題名が「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（木材利用促進法）」に変わりました（21年10月1日施行）。法の対象が公共建築物から建築物一般に拡大しました。国は中央省庁横断プロジェクトとして「木材利用促進本部」を設置。毎年10月を「木材利用促進月間」とし、各方面で「木づかい運動」キャンペーンやイベントを行っています。ネット検索で「木づかい運動でウッド・チェンジ！」特設サイトをご覧ください。

また二酸化炭素を吸収し成長していくという、森林のサイクルが保たれ、地球温暖化の防止にもつながっているのです。

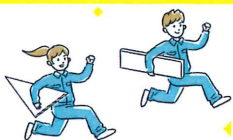


上の図解2点：林野庁「オフィスで、お店で、まちなかで木を使おう！木づかいのススメ」から

### 建築カレッジの出番

東京建築カレッジは、「日本における建築の基本は木造にある」とし、木の専門知識が豊富な建築従事者の育成とともに、教育実践を通して、木材利用・木造建築の啓発、発展のために積極的な役割を果たしてきました。今の情勢は建築カレッジの出番。国内林業など木に関わる人々と手をつなぎ、木造建築の未来を切り開きます。

## 東京建築カレッジYouTubeチャンネル チャンネル登録をお願いします！



### 第1部 | 基調講演

## 「西川・森の市場」の夢 現状と課題を語る 井上淳治 林業家

### 第2部 | クロストーク

## 日本の森林資源が生かせる 建築の仕事をつくるには 設計、大工、不動産の第一線で活躍中の 卒業生が語ります。



### 1年生の授業から

#### 1間×1間半の小屋をつくる！

## 4つの班で軸組み建築を体験

「建築のエッセンス（真髄）を伝統的な大工技術を通して体得する」。これが東京建築カレッジの教育の大きな特徴です。1年次の最初に手道具の扱い方、継手や仕口の墨付けや加工を学んだ後に、一つの建築物をつくり上げる初めての授

4つの班の軸組みの小屋が無事完成しました。高校新卒から50歳まで幅広い1年生（第27期生）。年齢差に関係なく仲良くなっています。（9月30日、江東実習場）

業が行われます。「軸組み実習」と呼ばれる1間（約1・8m）×1間半の小屋作りです。高橋俊幸指導員（第15期生）はこの授業で学んでほしいことは2つある、と話します。

「一つは、平面だったものを立体にする初めての経験です。細かい寸法をより正確にとらえないといけませんし、大きなところを考えながら製作しなければなりません。建築のスケール感の重要性を感じてほしいですね。」

もう一つは、チームワーク。他人の墨付けを別の人が刻みます。また工程管理、作業進捗の認識の一致も大切に意思疎通の訓練という点も大事などです。

この授業が終わると、前期の実習棟の解体。そして板図（伏図の一種）作成から実習棟実習がよいよ始まります。

「一つは、平面だったものを立体にする初めての経験です。細かい寸法をより正確にとらえないといけませんし、大きなところを考えながら製作しなければなりません。建築のスケール感の重要性を感じてほしいですね。」

もう一つは、チームワーク。他人の墨付けを別の人が刻みます。また工程管理、作業進捗の認識の一致も大切に意思疎通の訓練という点も大事などです。

この授業が終わると、前期の実習棟の解体。そして板図（伏図の一種）作成から実習棟実習がよいよ始まります。

## 講師から絶賛されたプランと模型

### 2年生の授業から

#### 意匠設計の仕事体験

大学の建築学科とは違い、本校では意匠設計の授業は一課題しかありません。世田谷区内の実際にある敷地に住む人を選定し、間取りを考えるとどこから行う住

宅自由設計の授業です。1年次から複数の科目横断型で進め、最後は50分の1の模型を完成させ、自分のプランを仲間たちにプレゼンテーションします。今年の発表では「この授業で過去最高の出来栄えだ」と担当講師が絶賛する作品も生まれました（9月16日）。

細部まで作り込んだ谷前昌幸さんの作品。「環境や法規制は受けるが『建築は本来自由』を感じさせる」と長野智雄講師。



## カレッジ生の育成・定着のための合同研修会

### 「大工の担い手確保」で蟹澤教授講演

東京建築カレッジは9月11日、「研修生派遣事業所と講師・指導員 カレッジ生の育成・定着のための合同研修会」を開催しました。31人が参加しました（会場「けんせつプラザ東京」）。

「どうする？建築大工の担い手確保」をテーマに、蟹澤宏剛 芝浦工業大学建築学部教授による講演・問題提起の後、今年度の新入生の授業の様子の報告、施工系・構造系・計画系・情報系・専門教養科目、各分野の先生方のスピーチ、研修生派遣事業所からの報告が行われました。

研修生派遣事業所と講師・指導員が一堂に会しての本格的な研修会は初めての試みで、互いの認識の共有化に役立てることができました。

10月16日(日)は、オープンキャンパス(学校説明会)会場は江東実習場！